

【ポスター発表】

**重症心身障害者の地域生活支援におけるキーパーソンの機能**

○ 淑徳大学 山下 幸子 (004434)

キーワード：重症心身障害者，地域生活，キーパーソン

**1. 研究目的**

本研究の目的は、重い身体障害と知的障害を併せもつ重症心身障害者が、親元や入所施設ではなく地域生活を営むに際し、中心的な役割を担う支援キーパーソンの機能について考察することにある。

障害者権利条約第19条では、「全ての障害者が他の者と平等の選択の機会をもって地域社会で生活する平等の権利を有することを認める」としており、条約批准後の現在、地域生活に向けた支援が展開される必要がある。重症心身障害者の地域生活においては、意思決定支援と医療及び生活支援を安定的かつ実効的に行える支援システムの構築が必要となる。その探求の一環として本研究では、障害者本人の生活を支える支援者—その中でも支援の中核を担うキーパーソンの機能に焦点化する。

**2. 研究の視点および方法**

本研究にあたっては文献研究とフィールドワークを行っている。重症心身障害者Bさんの地域生活支援を実践しているA事業所をフィールドとし、中核的な支援を担うキーパーソンの役割、支援システム全体から見た時のキーパーソンの位置付け—変遷と現況—の2点について、A事業所のスタッフへのインタビュー調査及びA事業所で所有している関連資料の閲覧を行う。

**3. 倫理的配慮**

日本社会福祉学会研究倫理規程を遵守して行う。調査において、報告者は所属組織の倫理委員会からの承認を得ている。事前に調査研究目的や匿名性の確保等について調査協力者に文書および口頭で説明を行い、それへの同意を受けて調査研究を行っている。

**4. 研究結果**

報告者は、これまで、重症心身障害者の地域生活における意思決定支援及び生活支援の構造について研究し、複数の支援者たちにより担われる日々の支援が円滑かつ適切に行えるよう、仕組を作り、障害者本人の生活の旗振り役を担うキーパーソンの存在について述べた。キーパーソンたちは自らも障害者の支援を行いながら、「予定の管理と編成」「介助シフトの編成」「いざというときの相談対応」といった役割を果たしていた(山下 2018)。

北野誠一は、障害者のエンパワーメントにつながる自立生活支援の形を、①自立生活支

援、②同意的自立支援、③後見的自立支援、④後見支援と4つに分類する。①と②は、意思決定が独力で可能な障害者において用いられる。本研究に関連する③と④は、意思決定支援を要する障害者を視野に入れた自立支援の形であり、③は「本人が一般的な判断等が現状では困難な場合に、可能な限り本人の判断等を理解・尊重してその意思決定を支援し、合意形成を行いながら支援を行うこと」（北野 2015: 170）、④は本人が意識を失った場合等、本人の意思が全くくみ取れない場合に行われる支援である。①から④に近づくにつれ、本人よりも支援者主導とならざるを得ないが、北野の研究は、その際も、本人の意思決定や意思表明を支援するエンパワーメントを志向する必要を指摘する（北野 2015）。

北野の言う後見的自立支援を行うには、障害者本人の意思のくみ取りの経験が豊富であることをはじめ、障害者の生活を連続性をもって見通し、必要に応じ各支援者や関係機関・人物と調整を図るという作業を、継続的に行うキーパーソンが存在が重要な意味をもつ。Bさんの地域生活の開始期においても、ある支援者がキーパーソンとなり生活が営まれていた。しかし当時はキーパーソン1名体制であり、その者が一極集中して支援の要となるのは、支援体制の安定上、課題となった。そこでBさんの支援では、Bさんの生活に関連する複数の人や組織同士をつなぐ「支援の輪」を構築し、各人が本人の生活の各場面において役割を果たす。この支援の輪を土台に、全支援者の中から複数人がキーパーソン役割を担うこととなった。そして支援者同士の間で、Bさんは支援の輪の中心に存しており、生活の要はBさん本人であるという考えへと変化して現在に至っている。キーパーソンは、本人の権利擁護の後ろ盾となり、生活支援をトータルに行うという機能をもつのである。

## 5. 考察

本研究においてはBさんの支援過程を実証的に検討しながら、キーパーソンの働きと、その働きの背景にある支援の輪について考察する。支援の輪の構築は、支援者個人の独断を避け、障害者本人とその生活を多面的に捉えることにつながるという利点や、複数人の関与による支援体制の安定という利点がある。ただ、支援の輪において、どのような役割分担がなされ、どのように連絡・調整をとるかという点が支援上の課題となる。そこで主に機能するのが、本人の意向を確認しつつ、生活の調整を行うキーパーソンたちの働きである。

### 【参考文献】

北野誠一（2015）『ケアからエンパワーメントへ一人を支援することは意思決定を支援すること』ミネルヴァ書房。

山下幸子（2018）「障害者本人を中心に、かつ本人と支援者たちとの共同により機能する支援の構造—ある重症心身障害者の地域生活から—」『日本社会福祉学会第66回秋季大会報告要旨集』（金城学院大学）、435-6。